

朝霞市外部評価委員会（第5回）  
次 第

日時 令和6年7月5日（金）  
午後2時から  
場所 朝霞市役所  
別館2階 全員協議会室

1 開 会

2 議 事

（1）外部評価「自然・環境に恵まれたまち」

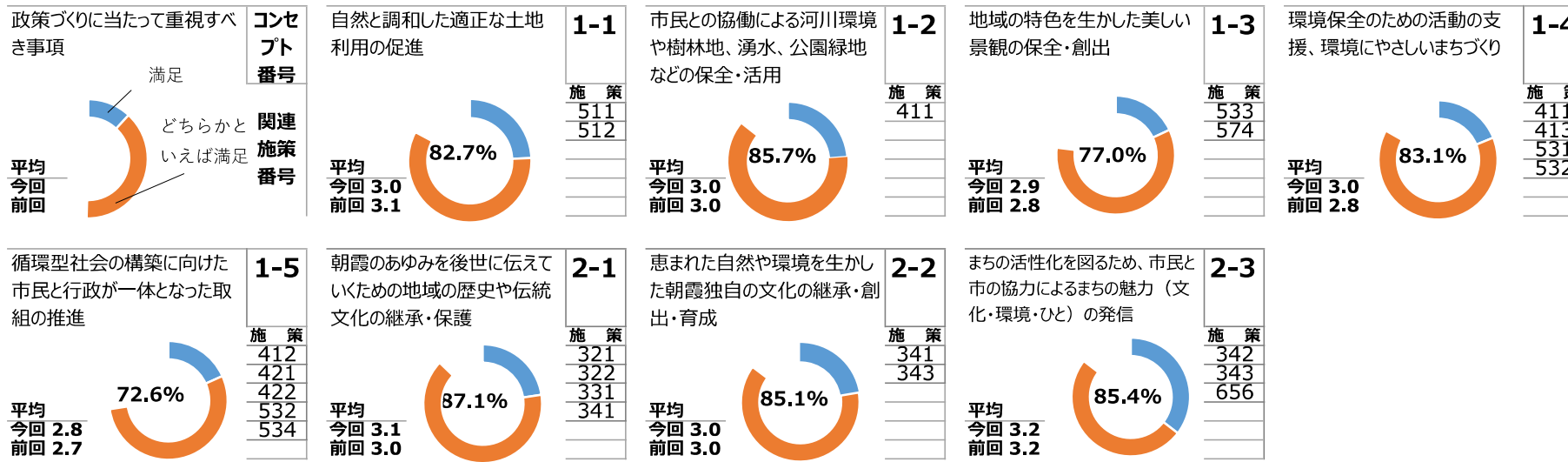
3 その他

4 閉 会

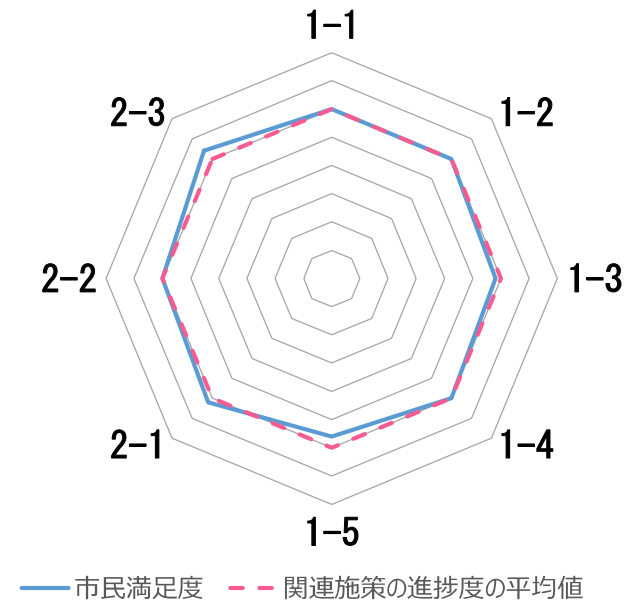
# 自然・環境に恵まれたまち

資料5-1

## 市民満足度アンケート結果：4段階判定（4満足・3どちらかといえば満足・2どちらかといえば不満・1不満）



## 市民満足度平均と進捗度平均の比較



## 進捗状況（市の自己評価）：4段階判定（4極めて順調・3おおむね順調・2やや遅れている・1大幅に遅れている）

進捗度	施策コード	まちの状態を表す指標 (施策評価シートの指標)	進捗度	321	事業参加者満足度 (%)	進捗度	322	事業参加者数 (人)
今回	3	生涯学習活動の推進	3	54,359	93.1 (R4実績), 92.8 (R5見込), 92.0 (R7目標)	3	699,292	31,723 (R4実績), 24,106 (R5見込), 70,000 (R7目標)
前回	3	総コスト (千円)	3			3		
進捗度	331	週1回以上スポーツを行っている人の割合 (%)	進捗度	341	博物館展示回数 (回)	進捗度	342	文化祭入場者数 (人)
3	60.0	3	113,758	7 (R4実績), 7 (R5見込), 6 (R7目標)	3	13,557	8,030 (R4実績), 8,766 (R5見込), 14,500 (R7目標)	
3	※アンケートは不定期で実施している。R4、R5は実施なし。	3		15 (R4実績), 15 (R5見込), 15 (R7目標)	3			
進捗度	343	地域イベント参加者数 (人)	進捗度	411	典型7公害苦情受付件数 (件)	進捗度	412	市事務事業のCo2排出量の削減率 (%)
3	1,090,000	3	39,179	9 (R4実績), 7 (R5見込), 6 (R7目標)	3	97,398	-4.47 (R4実績), 3.10 (R5見込), -8.60 (R7目標)	
3	480,000 (R4実績), 822,000 (R7目標)	3			2			
進捗度	413	環境美化ポスターの応募者数 (人)	進捗度	421	市民一人当たりごみ排出量 (g/日)	進捗度	422	ごみ焼却処理施設の稼働率 (%)
3	229 (R4実績), 251 (R5見込), 200 (R7目標)	3	45,563	558 (R4実績), 536 (R5見込), 462 (R7目標)	3	1,833,037	98.1 (R4実績), 98.4 (R5見込), 94.6 (R7目標)	
3	環境教育・環境学習の推進	3			3			
3	35,318	3			3			

<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>市街地の適正な利用</p> <p><b>3</b></p> <p>356,117</p>	<p>区画道路整備延長 (m)</p> <p>R4実績 853 R5見込 853 R7目標 3,756</p>	<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>市街地周辺の適正な利用</p> <p><b>3</b></p> <p>62,739</p>	<p>市街化調整区域の適正な土地利用 (-)</p> <p>国道254号バイパス周辺の適正な土地利用</p> <p>R7目標</p>	<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>まちの骨格となる緑づくり</p> <p><b>3</b></p> <p>1,278,853</p>	<p>市内全域における緑被面積の割合 (%)</p> <p>R4実績 37 R5見込 35 R7目標 37</p>
<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>うるおいのある生活環境づくり</p> <p><b>3</b></p> <p>15,151</p>	<p>公園・緑地管理ボランティア団体数 (団体)</p> <p>R4実績 22 R5見込 24 R7目標 25</p>	<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>まちの魅力を生み出す景観づくり</p> <p><b>3</b></p> <p>5,776</p>	<p>景観の満足度 (%)</p> <p>※調査は不定期で実施している。R4、R5は実施なし。</p> <p>R7目標 55</p>	<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>循環型社会を目指した環境にやさしいまちづくり</p> <p><b>3</b></p> <p>2,997</p>	<p>雨水流出抑制施設設置割合 (%)</p> <p>R4実績 100 R5見込 100 R7目標 100</p>
<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>都市農業の振興</p> <p><b>3</b></p> <p>70,960</p>	<p>認定農業者数 (人)</p> <p>R4実績 29 R5見込 29 R7目標 32</p>	<p><b>進捗度</b></p> <p><b>3</b></p> <p>シティ・プロモーションの展開</p> <p><b>3</b></p> <p>22,635</p>	<p>市に愛着を感じている市民の割合 (%)</p> <p>市民との協働や事業者等との連携によるシティ・プロモーションの機会 (累計) (回)</p> <p>R4実績 88.8 R5見込 86.7 R7目標 92.9 R4実績 39 R5見込 49 R7目標 15</p>		

## 市民満足度アンケート自由記述欄 (主なもの)

### ○自然・景観

- ・キャンプ跡地など、今ある緑地を残してほしい。(他4件)
- ・都心から近いにも関わらず、黒目川や朝霞の森等、自然を感じられる場所が多いのは自慢できるポイントだと思う。(他2件)
- ・高層マンションが増え、景観が悪くなっていると感じる。(他2件)
- ・ただある自然を使えるようにしているだけで、自然環境を生かしているか疑問である。もう少し近代的で自然で遊べる場所を作らないと、若い世代には響かないと思う。(他1件)
- ・カラスやムクドリが多さは実害も出ているため、生活が守られる範囲での自然への配慮であってほしい。
- ・街路樹のような身近な緑を増やし、子ども達が虫取りできるような林を残してほしい。
- ・朝霞郵便局辺りの樹木について、強風が吹くと大きめの枝が落ちて危険である。
- ・落ち葉への対策もあるようだが、城山通りのイチョウの木をあまりにも短く伐採されるため景観が悪い。
- ・統一感がなく、景観のバランスが取れていない所が多いため、景観計画の内容を見直してほしい。

### ○黒目川

- ・黒目川沿いの道について、舗装の修繕等の整備をしてほしい。(他5件)
- ・黒目川沿いの風景がよいと思う。(他1件)
- ・子供たちが黒目川の水辺で遊べる空間を維持するべきだと思う。
- ・黒目川の土手沿いにトイレがもう少し多くあると、ウォーキングがしやすい。

### ○シンボルロード

- ・シンボルロードはとても魅力ある場所だと思う。(他5件)
- ・きちんとお金をかけて整備しているのはシンボルロードだけだと思う。(他1件)
- ・シンボルロード自体は憩いの場としても良いと思うが、もっと近隣の道路を整備してほしい。
- ・シンボルロードを作ったことにより、総合体育館の駐車場が減少したため、代替駐車場を整備してほしい。

### ○公園・朝霞の森

- ・朝霞の森は市の財産だと思うので、ずっと残してほしい。(他1件)
- ・プレーパークをもっとたくさん開催してほしい。
- ・滝の根公園は枯れ木が多く、遊具の老朽化なども危ないので、大規模リニューアルを検討してほしい。
- ・水久保公園の自然は多いが、子どもたちの遊び場としては広場がなく不便である。
- ・駅の周りの整備ばかりではなく、早く城山公園を使えるようにしてほしい。
- ・公園は近隣市より規模も整備も見劣りしている。
- ・きれいな街やシンボルロードよりも、ボール遊びができる公園等、子どもが自由に遊べるスペースをもっと確保することに尽力してほしい。

### ○農業

- ・「にんじんの街」と聞くと、朝霞産は農園などの直売所しか購入できない。
- ・市民農園が常に空き待ちのため、用地を増やすか、使用期限を設けるなどしてはどうか。
- ・畑だった所にマンション等を建てるのではなく、もっと木々を植えたり、子どもたちが農業を体験できるような施設を作してほしい。
- ・畑の所有者へ砂ぼこりの対策を呼びかけてもらいたい。

### ○ごみ・リサイクル

- ・道の清掃などが行き届いていて、生活しやすい。(他3件)
- ・リサイクルショップは規模を大きくしてもよいと思う。(他1件)
- ・歩きタバコ、タバコやごみのポイ捨てが多すぎて、環境や美化には大きな課題があると感じている。
- ・大地震等、非常時におけるごみ処理対策の情報共有をお願いしたい。
- ・車が無く、家具をリサイクルセンターに持って行けないため、リサイクル回収事業を拡大してほしい。
- ・内間木の残土置き場は、風向きによってかなり悪臭がしており、生活しづらい。

### ○彩夏祭

- ・彩夏祭はいいお祭りだと思う。これからも継続してもらいたい。(他11件)
- ・彩夏祭は市外からの人が増え、市民まつりのイメージが薄らいでいるように思う。(他2件)
- ・花火中止のドタバタは、問題発生時のマニュアルが整備されていないと感じて残念だった。(他1件)
- ・彩夏祭に子どもが参加したが、昨今の異常な猛暑から熱中症等が心配だった。少しでも時期をずらすなど対策が必要だと思う。

### ○その他イベント

- ・シンボルロードのイルミネーションは毎年開催してほしい。(他4件)
- ・ストリートテラスは、他市の人にも羨ましがられるイベントなので、継続してほしい。(他2件)
- ・様々なイベントがあって楽しい。続いてほしい。(他1件)
- ・ストリートテラスはPR不足であり、店舗数も少ないなど、盛り上がり欠けている。(他1件)
- ・彩夏祭だけではなく、ストリートテラスや冬のイベントも盛り上げてほしい。
- ・イベントは朝霞駅周辺が多く、朝霞台寄りに住んでいると参加する気が起きづらい。
- ・朝霞駅のイルミネーションやモニュメントの設置は不要ではないか。

### ○文化・歴史

- ・博物館が物足りない。施設は存続してほしいが、もっと充実させるべきだと思う。(他1件)
- ・文化、歴史を保持する活動はこれからも継続してもらいたい。(他1件)
- ・博物館の企画展は必ず行くようにしているが、市の産業、文化、歴史が企画展ごとによく理解できる。

### ○その他

- ・朝霞駅や市役所周辺はわりと整備されているように感じる。(他8件)
- ・朝霞台駅、北朝霞駅、駅周辺の老朽化などについて、市からも働きかけてほしい。(他1件)
- ・東京都では路上喫煙が禁止されている条例があると聞くと、朝霞市も禁煙条例に動くべきだと思う。

# 321 生涯学習活動の推進

資料5-2

担当課 生涯学習・スポーツ課  
 関連課 —



## 目指す姿

市民の学習ニーズに応えた学習や学習情報の提供及び活動の充実が図られ、いつでも、どこでも、誰でもが学べる生涯学習環境が整っている。また、市民による自主的な活動が活発に行われるとともに、学習の中心となる人材の育成と活用が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P88》

### 指標 1

事業参加者満足度 (%)

生涯学習各種事業における満足度

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
93.5	93.1	92.8	92.0

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

### 【新規】

令和4年度から実施した、夏季休暇期間の放課後子ども教室の開催について、令和5年度から市内6校で3日間から2日間増とし、6校で5日間の計30回実施することができた。

### 【継続】

- ・社会教育委員会議を3回開催した。会議では、第3次生涯学習計画後期期間の進捗管理を行うとともに、生涯学習施策の推進体制等について建議いただき、方向性が明示された。
- ・生涯学習ガイドブック「コンパス」を発行し、生涯学習情報の周知を図った。また、市民等の自主的な学習活動に対し、補助金を交付し、団体等の活動支援を行った。
- ・市民企画講座、生涯学習体験教室、放課後子ども教室など各種事業を実施し、事業の推進に努めた。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【外部評価委員会】

- ・市民のニーズを知るために何かされていることはあるか。ニーズに合わせてされた改善や工夫を教えてください。
- ・リーダーの育成や、専門的な職員の配置について現在の状況は。
- ・高齢者のデジタルデバйд対策が必要。高齢者がスマートフォンをはじめとするデジタル機器について学べる機会はあるか。

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

従来どおり社会教育委員会議を3回開催した。会議では、第3次生涯学習計画の後期期間における令和4年度の事業評価について建議いただくとともに、計画の進捗管理等について、ご意見等いただいた。また、生涯学習部における事業報告と事業計画についてお諮りし、ご意見をいただくことで、本市の生涯学習の方向性が示されることとなった。

### 【外的要因】

感染症の5類移行に伴い、事業の行い方を精査することで、今までどおり事業展開を行うことができた。

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

各種事業が滞りなく開催されることで、参加者も前年度より増加しており、生涯学習活動を求めている市民が多いことを改めて確認した。今後も学習ニーズに応じた事業展開を行うとともに、新たな情報なども随時発信していく。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	人権教育振興事業	6,887	6,804	8,837	継続
2	成人の日記念式典事業	7,110	11,528	12,347	継続
3	生涯学習啓発推進事業	19,802	15,356	21,212	継続
4	放課後子ども教室事業	8,279	12,407	11,963	継続
5	家庭教育推進事業【再掲】	-	-	-	継続
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		42,078	46,095	54,359	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
42,078	46,095	54,359

## 6 現状と課題の分析

従前の事業体系に戻り、継続して学校・家庭・地域が連携し、つながる社会教育を目指していく。

## 7 今後の展開

生涯学習施策の根幹である「第3次朝霞市生涯学習計画」を基に、多様な学習プログラム、生涯学習情報の提供に努めていく。本計画の基本理念である「一人一人が心豊かにともに学び 生きるまち あさか」を実践し、市民が主体的に学び、人から人へと学びが行き渡ってゆく知の循環型社会を目指し、生涯学習施策を推進する。

## 8 行政と市民の役割分担

第3次朝霞市生涯学習計画に則り、市は市民の学びを支援し、市民が学び合い、教え合うといった、「知の循環型社会」が構築されていくよう、サポートに努める。また、市は市民とともに協働で学習活動が推進されていくように事業展開を推進する。

## 9 所管部の総括

令和5年度は生涯学習施策全般が、従前のおりに運営することができた。新たな取組や拡充すべき生涯学習事業を一つ一つ丁寧に行いながら、生涯学習施策の推進に努めていく。

# 322 学びを支える環境の充実



担当課 中央公民館  
 関連課 図書館、文化財課

## 目指す姿

「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」が学べる施設運営が図られ、市民ニーズに応じた学習、文化活動が充実することにより、市民は教養や健康の維持向上を図る機会を享受し、豊かな社会生活を営んでいる。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P88》

### 指標 1

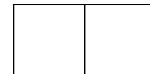


事業参加者数（人）

公民館、図書館、文化財課が行う生涯学習事業の参加者総数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
36,898	31,723	24,106	70,000

### 指標 2



—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

### 【新規】

- ・公民館では、中央公民館エレベーター改修工事や長寿命化改修工事設計業務委託のほか、東朝霞公民館の空調設備改修工事、北朝霞公民館空調設備改修工事設計業務委託を実施した。また、受験勉強用として空き部屋を解放した。
- ・博物館では、博物館外壁等改修工事設計業務委託を実施した。

### 【継続】

- ・公民館では、各種主催事業の実施、利用団体への部屋の貸出しを行った。また、施設の維持管理や必要な修繕を実施した。
- ・図書館では、資料の選定、保存、管理、貸出、情報提供、多様な事業の実施により読書推進を図った。また、施設の維持管理、修繕を実施した。
- ・博物館では、展示、教育普及、資料調査、資料保存及び施設の維持管理を実施した。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

- ・各審議会において、事業計画や新規の取組みなどについて承認をいただいた。

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・公民館では、利用団体数が徐々に回復するとともに、事業や講座も概ね計画どおりに実施できた。
- ・図書館においては、図書、電子図書、視聴覚、新聞、雑誌などの図書館資料の提供、多様な事業の実施により学習機会の提供、読書の推進を適切に行うことができた。また、施設管理においても必要な修繕を行うことができた。
- ・博物館では、事業の実施状況を新型コロナ過以前の状況に戻すべく、可能な限り定員や回数を増やして事業を展開した。

### 【外的要因】

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

生涯学習における様々な学びを支えるため、中央公民館、文化財課、図書館ともに、今後もそれぞれの事業の継続が必要である。



## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	西朝霞公民館運営事業	19,668	13,147	12,012	継続
2	中央公民館運営事業	33,485	22,908	15,402	継続
3	東朝霞公民館運営事業	14,057	13,868	11,606	継続
4	内間木公民館運営事業	13,281	12,847	11,486	継続
5	南朝霞公民館運営事業	11,000	11,615	12,047	継続
6	北朝霞公民館運営事業	18,439	17,044	17,571	継続
7	図書館運営事業	142,196	146,888	151,628	継続
8	図書館北朝霞分館運営事業	67,716	66,607	67,425	継続
9	博物館運営事業	59,335	25,061	39,401	継続
10	西朝霞公民館管理事業	11,654	14,753	15,848	継続
11	中央公民館管理事業	43,895	39,362	39,291	継続
12	東朝霞公民館管理事業	16,239	16,629	15,491	継続
13	内間木公民館管理事業	16,250	14,288	17,601	継続
14	南朝霞公民館管理事業	16,758	15,937	16,216	継続
15	北朝霞公民館管理事業	12,860	16,175	13,938	継続
16	図書館管理事業	30,508	35,020	34,548	継続
17	図書館北朝霞分館管理事業	2,967	2,734	3,430	継続
18	博物館管理事業	43,697	31,198	42,976	継続
19	施設改修事業（公民館）	21,944	86,697	154,346	継続
20	施設改修事業（博物館）	-	26,358	7,029	継続
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		595,949	629,136	699,292	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
595,949	629,136	699,292

## 6 現状と課題の分析

・公民館、図書館、博物館それぞれにおいて、限られた予算で効果的な事業の実施や適切な施設の維持管理を行うとともに、魅力ある事業の企画などにより、地域における生涯学習活動の拠点として来館者数の増加や利用者満足度の向上に努める必要がある。

## 7 今後の展開

・施設改修の実施を予定している部署は、より安全で快適に施設が利用できるよう取り組んでいく。  
・情報通信機器の普及やデジタル化、新型コロナウイルスの影響など、社会の変化を的確に捉えるとともに、市民ニーズの把握に努め、公民館、図書館、博物館における市民サービスのあり方を考えていく必要がある。

## 8 行政と市民の役割分担

・各施設の管理維持は行政が主体となり実施し、施設運営については窓口等での意見や各課の事業、審議会における意見等を参考に実施していく。  
・各課の主催事業は、アンケートなどによる市民の声を反映させながら実施する。また、市民との協働による事業を今後も継続していく。

## 9 所管部の総括

・利用者が増加傾向にあり、施設の老朽化対策（修繕、工事）にも取り組みながら、安全かつ快適に利用できるよう取り組んできたことと認識しているが、一方で、情報発信が弱いとの指摘を受けていることから、より効果的な情報発信のあり方を考えていく必要がある。

# 331 スポーツ・レクリエーション活動の推進



担当課 生涯学習・スポーツ課

関連課 —

## 目指す姿

誰でも いつでも どこでも楽しめる生涯スポーツ社会の実現が図られ、市民が日々スポーツ・レクリエーションに親しんでいる。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P90》

### 指標 1



週1回以上スポーツを行っている人の割合（％）

週1回以上スポーツを行っている人の割合

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
48.4 (令和元年度)	—	—	60.0

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

### 【新規】

東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを引継ぎ、令和5年度も関連した自主事業を行った。  
(市民ポッチャ教室、誰でもOK！記録を破れ！等)

### 【継続】

- ・本市におけるスポーツ施策の方向性やスポーツ・レクリエーションの推進方策について、スポーツ推進審議会及びスポーツ推進委員会議を開催し、検討を行った。
- ・市民総合体育大会実行委員会及び体育協会に補助金を支出し、各団体の運営支援を行った。
- ・市民体育振興奨励補助金及び青少年スポーツ振興補助金を支出し、市民・団体の活動を支援し、市民のスポーツ・レクリエーションの振興に努めた。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシー事業として開催したポッチャ等の競技を今後も市民スポーツ教室等で引き続き開催する。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【外部評価委員会】

- ・体育館で活動するサークルをガイドブック「コンパス」に掲載できれば良いと思うが可能なのか。
- ・小学校のバレーボールのポール、網などが、とても古くなっている。スポーツ道具の点検などはしているのか。

### 【スポーツ推進審議会】

- ・市民体育祭の開催に際し様々な工夫をし、よく運営している。

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

市民総合体育大会、ロードレース大会など大規模なイベントのほか、ウォークラリー大会、市民スポーツ教室及び小学生スポーツ教室等すべて実施することができた。  
また、スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会議を例年どおり開催し、各委員から御意見をいただき、施策及び事業に取り入れることが可能なものについては、反映できるように努めたことや、各種補助金についても継続的に実施できたことで、概ね順調であると判断する。

### 【外的要因】

感染症も第5類への移行により、スポーツ大会等中止することなく実施できた。

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・働き方改革や新しい生活様式が広まり、仕事以外の生きがいや交流の場が求められ、スポーツがその役割を期待されている。
- ・平均寿命が延びている中で、単なる寿命の長さではなく、健康で長生きすること（健康寿命）がクローズアップされている。
- ・中学校の部活動の在り方について、地域の指導員の人材確保などが課題である。



## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	スポーツ振興事業	25,747	18,404	18,439	継続
2	スポーツ団体等補助事業	20,252	12,048	11,942	継続
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		45,999	30,452	30,381	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
45,999	30,452	30,381

## 6 現状と課題の分析

- ・市民がスポーツに親しむきっかけ作りとして、事業内容や周知方法を検討する必要がある。
- ・体育施設は多くの人が利用しているが、施設・スペースは限られており、効率的な利用方法を検討するとともに、体育施設以外の場でできる運動の紹介なども必要である。

## 7 今後の展開

- ・第2期朝霞市スポーツ推進計画では、各種施策により、市民がスポーツに触れる機会を提供し、「みる・ささえる・つながる」スポーツから「する」スポーツにつなげ、同計画の目標である「20歳以上の市民のうち、60%が週1回以上スポーツを行うこと」を目指していく。
- ・体育施設の指定管理者である文化・スポーツ振興公社とさらに連携を深め、市民への啓発及び事業実施を進める。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・体育協会やスポーツ関係団体、自治会・町内会などとの連携を図るとともに、市民の意見を取り入れながら、効果的に事業を展開していく。

## 9 所管部の総括

- 市民総合体育大会市民体育祭では、従来のスケジュールへと戻し、そのほかロードレース大会といった主要事業や、各種教室などをすべて開催できた。
- 各種大会、事業等は、市民の間にスポーツを普及し、市民の親睦と健康増進につながり、スポーツ・レクリエーションの振興を図る上で重要なものである。引き続き、関係団体等と連携を図り、生涯スポーツ施策の推進に努めたい。

# 341 歴史や伝統の保護・活用



担当課 文化財課  
 関連課 —

## 目指す姿

市民が地域の歴史や文化財について身近に接する機会が増え、次世代に地域文化が歴史や伝統とともに継承され、郷土に対する愛着や文化財保護の理解と認識が深まっている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる  
 (イ) 市民の地域に対する誇りと愛着の醸成

《後期基本計画冊子 P92》

### 指標1



博物館展示回数（回）

博物館のテーマ展、企画展、ギャラリー展等の開催回数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
7	7	7	6

《まち・ひと・しごと P36》

### 指標2

【まち・ひと・しごと】



博物館を授業等で使用した市内小中学校数（校）

博物館を授業等で使用した市内小中学校数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
12	15	15	15

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・県指定史跡柁塚古墳（柁塚古墳歴史広場）枯損木伐採
- ・重要文化財旧高橋家住宅枯損木伐採
- ・重要文化財旧高橋家住宅保存修理工事（茅葺屋根全面差し茅、東側谷部補修、竹簀子床補修等）

- ・各種媒体を通じての文化財に関する普及啓発。
- ・文化財保護関係団体への補助金交付。
- ・指定文化財の柁塚古墳歴史広場、湧水代官水、広沢の池、二本松の保護、管理。
- ・埋蔵文化財の確認調査(試掘調査)、発掘調査、整理、資料作成、出土品保存処理、調査報告書刊行。
- ・埋蔵文化財センターの維持管理。
- ・重要文化財旧高橋家住宅の維持管理、活用事業13回、年中行事展示14回。
- ・博物館運営事業

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】重要文化財旧高橋家住宅については、市民に対して、その重要性を周知し、維持・保存も地域の役割であることの啓発に努めてほしい。

【博物館協議会】博物館法改正を踏まえ、引き続き地域や学校との連携を進めるとともに、Wi-Fi等環境の整備やデジタルアーカイブ化に向けた検討を始めてほしい。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

指標1については、目標を達成できている。  
 指標2については、目標を達成できている。

なお、埋蔵文化財調査件数について、市内開発事業の増加に伴い、目標値2件に対し、令和3年度13件、令和4年度9件、令和5年度4件となっており、目標を大幅に上回る状態が続いている。

### 【外的要因】

コロナ禍以前の状況に戻りつつあることを念頭に置きながら、博物館法の改正により必要とされる事業についても計画し、取り組む。

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

博学連携での必要性をはじめ、文化財などの歴史資源を観光資源として使用しようとする動きが、博物館法の改正を含め、活発化してきており、地域の歴史、文化や文化財に対する意識が高まってきている。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	旧高橋家住宅管理運営事業	19,994	14,627	14,993	継続
2	指定文化財等保護管理事業	16,235	14,952	22,506	継続
3	文化財保護普及事業	7,355	6,822	6,924	継続
4	埋蔵文化財センター管理事業	7,735	8,791	9,119	継続
5	埋蔵文化財調査保存事業	31,610	36,776	38,791	継続
6	博物館運営事業【再掲】	-	-	-	継続
7	施設改修事業(旧高橋家住宅)	-	3,695	21,425	休止・廃止
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		82,929	85,663	113,758	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
82,929	85,663	113,758

## 6 現状と課題の分析

博物館の開館から27年、文化財保護係と併せ文化財課となり16年が経過する中で、施設や機器の経年劣化等により、文化財の十分な活用が図れない状況にある。

これらの文化財を保存し広く活用できるよう、施設改修や機器の更新も含め、適切な保存環境の整備及び調査、整理、保存措置等を行う必要がある。

## 7 今後の展開

博物館法改正の趣旨に鑑み、文化財の保護・管理とともに、文化財を市の特徴を示すプロモーションとして使用できるよう、関係各課との情報共有を行っていく必要がある。

## 8 行政と市民の役割分担

（市）・旧高橋家住宅で、重要文化財の保護に従事するボランティアを育成する。・歴史や伝統の保護・活用のために活動している市民団体について、補助金を交付し、必要に応じて相談にのるとともに、関連情報の提供や活動支援を行う。・博物館で、学芸員と研究団体が連携し、調査等を行う。

（市民）・旧高橋家住宅登録ボランティア・文化財保護関係団体・博物館講座室利用団体

## 9 所管部の総括

指定文化財について、定期的に状況観察を行い、必要に応じた措置を施し維持管理できたこと、可能な限りコロナ禍前の状態にて事業を展開したことは重要であるとする。

今後においても適切な資料保存を行うとともに地域的特色について学術的な調査研究を進め、後世に文化財・歴史を伝授するよう努めたい。

# 342 芸術文化の振興



担当課 生涯学習・スポーツ課  
 関連課 —

## 目指す姿

市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会を得るとともに、より身近で優れた芸術文化に親しめる機会が提供されている。

各種団体やグループをネットワーク化し、市民の自主的な活動の充実と活性化をはかり、芸術文化に感心を持つ市民の活動が促進されている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P92》

### 指標 1

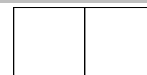


文化祭入場者数（人）

朝霞市文化祭の入場者数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
2,196	8,030	8,766	14,500

### 指標 2



—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

### 【新規】

感染症により中断していた芸術や文化活動をほぼ全体的に開催することができた。芸術文化団体や市民の方の芸術文化への高揚を図ることができた。

### 【継続】

令和5年度は、「芸術文化展」、「市民芸能まつり」、「文化祭」ほか、夏休み親子陶芸教室といった芸術文化事業を全て実施することができた。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

文化協会と共催する芸術文化展、文化祭などの展示、発表部門のほか、夏休み親子陶芸教室など、実施することができた。参加者や入場者は確実に増加しており、文化協会に加盟する方々の展示、発表とそれを鑑賞する入場者により以前のように盛り上がるまでになった。

### 【外的要因】

朝霞市文化協会などの活動も以前のように活性化し、芸術文化事業が活性化してきたと考える。

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

文化や芸術は親しみをもって取り組んでいくことで、暮らしや生活に豊かさをもたらし、心にゆとりを与えてくれる。また、芸術文化が時代を超えて伝え広まっていくよう、次世代への担い手に継承していくかなければならない。芸術文化に触れ合うことで、市民それぞれの交流機会ともなり、コミュニティの活性化にもつながるものと考えられ、その必要性は大きい。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	芸術文化振興事業	7,637	12,640	13,557	継続
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		7,637	12,640	13,557	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
7,637	12,640	13,557

## 6 現状と課題の分析

文化事業を滞りなく開催することができた。引き続き文化協会と連携し、関連する団体等とも協働するなどし、子どもから高齢の方、障害のある方、また、外国人まで全ての方が、分け隔てなく、芸術文化に触れ、親しむことができる文化施策の展開を行っていく。

## 7 今後の展開

子どもから高齢の方、また、障害のある方など全ての方が芸術文化に親しむことで、豊かなまちづくりにつながるよう引き続き、芸術文化の継承に努めていく。  
また、地域の学生や若者たちが参画できる芸術文化事業の運営にも努めていく。

## 8 行政と市民の役割分担

市は、文化協会との協働により、文化祭や芸術文化展、市民芸能まつりを開催する。

## 9 所管部の総括

文化祭事業、夏休み親子陶芸教室などを開催し、いずれも多くの参加者、入場者を受け入れることが出来た。芸術文化事業に親しむ市民は多く、市の活性化にもつながるものであるため、芸術文化施策をより推進していく。



# 343 地域文化によるまちづくり



担当課 地域づくり支援課

関連課 政策企画課、産業振興課

## 目指す姿

朝霞市民まつり「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、地域文化が継承されており、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる  
(イ) 市民の地域に対する誇りと愛着の醸成

《まち・ひと・しごと P36》

指標 1 | 【まち・ひと・しごと】



地域イベント参加者数（人）

本市を代表する四季のイベント（黒目川花まつり、彩夏祭、朝霞アートマルシェ、北朝霞どんぶり王選手権）の参加者数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
7,000	480,000	1,090,000	822,000

指標 2 |

-

-

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

【新規】

【継続】

- ・コミュニティ協議会に補助金を交付。【運営費補助金405千円、市民まつり補助金38,500千円】
- ・彩夏祭のよさこい鳴子踊りに参加する小・中学校に補助金を交付。【市内小・中学校6校に対し合計1,700千円】
- ・コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営。
- ・朝霞市民優待の実施（佐久市、東根市、西伊豆町/ホテル・旅館の宿泊料10%割引、瑞浪市/3館共通パスポート配布）

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

該当なし

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

指標1の目標である、本市を代表する四季のイベント（黒目川花まつり、彩夏祭、朝霞アートマルシェ、北朝霞どんぶり王選手権）の参加者数について目標を達成できた。

【外的要因】

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

地域文化を育て、発信し、まちを盛り上げるためにも彩夏祭をはじめとする四季のイベントの果たす役割は重要であり、ふると朝霞の文化として、市民の期待度は引き続き高いと考えられるため、引き続き、地域活性化のために積極的に支援する必要がある。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	コミュニティ推進事業【再掲】	-	-	-	継続
2	国際・都市間交流事業	2,657	2,854	3,588	継続
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		2,657	2,854	3,588	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
2,657	2,854	3,588

## 6 現状と課題の分析

人口の流出が多く、ふるさと意識が希薄になりがちで、かつ、独自の文化が育ちにくい状況にある。今後においては、ふるさと意識を形成し、市民が地元に着愛と誇りを持つよう、「彩夏祭」「黒目川花まつり」「朝霞アートマルシェ」「どんぶり王選手権」などの地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。

## 7 今後の展開

「彩夏祭」「黒目川花まつり」「朝霞アートマルシェ」「どんぶり王選手権」などの地域独自の文化が市民の間に根付くよう積極的に情報発信を行っていく。

## 8 行政と市民の役割分担

四季のイベントは、市民が主役のイベントであり、主催団体である市民まつり実行委員会や商工会等が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、市が担っている役割と市民が担っている役割が適当であるか両者で確認していく。

## 9 所管部の総括

市民まつりなど地域イベント活性化のため、市としても必要な支援をしていく。

# 411 住みよい環境づくりの推進



担当課 環境推進課  
 関連課 みどり公園課

## 目指す姿

住みよい環境づくりを推進するため、自然環境が保全・再生され、生活環境が保全され、動植物の適正な保護と管理が行われている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P98》

### 指標 1



#### 典型7公害苦情受付件数（件）

環境基本法で定義されている、騒音・振動・悪臭などの典型7公害に対する苦情件数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
8	9	7	6

### 指標 2

--	--

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・浜崎ドッグランの管理運営の実施。

### 【継続】

- ・合併処理浄化槽の設置や適正な維持管理の周知啓発。
- ・市民団体との協働及び活動支援、環境審議会等の開催。
- ・緑化推進会議の開催、緑地管理ボランティアの支援。
- ・みどりのまちづくり基金募金活動、PR活動の実施。
- ・生産緑地地区の指定や解除、変更等の事務の実施。
- ・大気・水質環境調査、道路の騒音・振動に係る調査及び、水質汚濁防止法に関する事業所対立入調査の実施。
- ・畜犬登録事務や野生鳥獣などの相談及び対処等の実施。
- ・スズメバチの巣の駆除、ムクドリの追い払いを実施。
- ・きれいなまちづくり運動や不法投棄対策などの実施。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・指標1については、目標を僅かに達成することができなかったが、苦情件数は年々減少傾向にある。今後も継続して公害の苦情件数が0件となるよう、取り組みを進めていく。
- ・各実施事業については、合併処理浄化槽設置促進事業や緑化推進事業などの一部で目標数値を下回る指標もあったが、概ね順調に実施することができた。

### 【外的要因】

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

自然環境や生活環境の改善など、住みよい環境づくりに対してのニーズは継続的に高く、今後も同様に続くものと考えられる。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	合併処理浄化槽設置促進事業	5,300	5,172	4,464	継続
2	環境推進総務事務事業【再掲】	—	—	—	継続
3	緑化推進事業【再掲】	—	—	—	継続
4	みどりのまちづくり基金積立事業【再掲】	—	—	—	継続
5	生産緑地管理事業【再掲】	—	—	—	継続
6	環境情報収集及び公害監視事業	16,111	17,284	17,526	継続
7	鳥獣・害虫管理事業	13,266	14,449	17,189	継続
8	環境美化事業【再掲】	—	—	—	継続
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		34,677	36,905	39,179	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
34,677	36,905	39,179

## 6 現状と課題の分析

- ・大気・水質環境調査などの結果は安定した数値を示しているが、今後も定期的な監視と対策を実施していく必要がある。
- ・環境の保全、防災、景観形成、レクリエーションなどの機能を持つ緑の減少傾向を止めるため、積極的に保護・創出する必要がある。
- ・環境を改善するために、市は市民、事業者に対して意識啓発や活動支援を行うことが重要である。

## 7 今後の展開

- ・自然環境や生活環境の状況を把握するため、引き続き環境調査等を行い、調査結果を基に環境の悪化や公害の発生を未然に防止するとともに、市民等に対し情報提供を行う。
- ・緑地の保全及び緑化の推進を図るとともに、自然環境、生物多様性等についての情報収集や発信に努めていく。

## 8 行政と市民の役割分担

自然環境・生活環境を保全していくためには、市、市民・市民団体、事業者等の協働は欠かすことができない。それぞれが役割を理解し、環境に負荷を与えない行動を実践していく。

## 9 所管部の総括

市、市民、事業者がそれぞれの役割に応じて協働で住みよい環境づくりの推進に関わっていくことが重要である。自然環境の保全・再生、生活環境の保全、動植物の適正な保護と管理が必要であることを共通認識としていけるような、周知啓発に努めていく。また、新たな課題に対応した第3次環境基本計画の施策を、着実に推進していく。

# 412 低炭素・循環型社会の推進



担当課 環境推進課  
 関連課 資源リサイクル課

## 目指す姿

低炭素・循環型社会を推進するため、資源の有効活用などの環境に配慮した取組、温室効果ガスの排出抑制の取組が行われている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P98》

### 指標 1



#### 市事務事業のCo2排出量の削減率（%）

市の事務事業から排出されるCo2排出量の削減率(H25年度比)

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
1.06	-4.47	3.10	-8.60

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・創エネ・省エネ設備設置費補助金の補助メニューの追加（HEMS：定額1万円、V2H：定額10万円）
- ・省エネエアコン買換え促進補助金交付の実施。

### 【継続】

- ・朝霞市創エネ・省エネ設備設置費補助金交付要綱に基づき補助金を交付した。
- ・会員登録された市民から不要な衣類や雑貨等を出品してもらい、販売して清算した。
- ・リサイクルプラザ企画運営協議会と市の協働により各種講座等を開催し、ごみ減量等の情報を発信した。
- ・市内の家庭で再生可能な不要家具類を引き取り補修して、毎月、抽選により展示販売を実施した。
- ・地球温暖化防止に係る周知啓発の実施（アイドリングストップ用のぼり旗の設置、広報・HP、エコライフDAY・WEEKチェックシートの配布回収）など。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【外部評価委員会】

リサイクルプラザについて、市が運営するのであれば、時代の変化を踏まえ、アプローチの仕方を見直したり、展示テーマを絞ったりなど、有効な使い方を検討する必要があるのではないかと。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・指標1については、令和4年度から「第4次地球温暖化対策実行計画事務事業編」による削減目標の算出方法となっており、令和3年度のみ前計画の数値となっている。
- 現状で正確な数値を算出できないため、令和5年度の指標は目標数値となっている。
- 引き続き温室効果ガス削減の目標達成のため、意識醸成に努めるとともに、啓発活動を継続していく。
- ・各実施事業については、リサイクルプラザ運営事業、リサイクルショップ運営事業などで、目標数値を下回る指標があったが、概ね順調に実施することができた。
- 特に、地球温暖化対策推進事業では、市役所内に設置した電気自動車用急速充電器の利用件数については、大幅に目標を上回ることができた。

### 【外的要因】

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

国は2050年カーボンニュートラル実現に向け取組を進めており、市においても2030年CO2排出量46%削減を目指し動いている。今後においても、再生可能エネルギーの普及やリサイクル事業、地球温暖化対策事業のニーズは増加傾向となることが考えられる。



## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	再生可能エネルギー普及推進事業	9,862	10,072	43,044	継続
2	リサイクルショップ運営事業	10,895	10,921	11,715	継続
3	リサイクルプラザ運営事業	12,349	12,182	12,543	継続
4	リサイクルプラザ管理事業	14,885	15,209	16,156	継続
5	リサイクル家具類販売事業	6,471	6,250	6,125	継続
6	地球温暖化対策推進事業	16,627	8,442	7,815	継続
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		71,089	63,076	97,398	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
71,089	63,076	97,398

## 6 現状と課題の分析

- ・CO2の削減のためには、意識醸成等の啓発とともに、省エネ設備等の導入が不可欠であるが、財政上の問題もあり直ぐに実施することは難しい。そのため、施設の大規模改修等の際に、再エネや省エネ設備の導入を推進していくことが課題となる。
- ・リサイクルプラザ企画運営競技会と市の協働による各種講座の開催については、実施方法などを検討し、多くの市民の方に利用いただけるよう検討を行う。

## 7 今後の展開

- ・脱炭素・循環型社会の実現に向け、地球温暖化対策等をさらに推進するため、第3次朝霞市環境基本計画や地球温暖化対策実行計画の施策を、着実に推進していく。
- ・循環型社会を推進するための啓発活動や情報発信を継続し、市民が行う省エネ対策等に対する支援を継続するとともに、創エネ・再エネ設備設置費補助金の内容拡充の検討を行う。

## 8 行政と市民の役割分担

脱炭素・循環型社会の構築に向けて、全ての人が一体となって協力し合い、温室効果ガスの排出の削減や省エネ・省資源等に取り組むことが大切である。市は率先して環境行動をとり啓発を進め、市民や事業者等はそれぞれの役割の中で、積極的に脱炭素・循環型社会の推進に取り組む必要がある。

## 9 所管部の総括

脱炭素・循環型社会は、市民・事業者・行政が一体となって取り組まなければ達成することができない。カーボンニュートラル実現に向けて、産業、暮らし、交通、公共等あらゆる分野で取り組む必要がある。温室効果ガスの削減等を推進するための地球温暖化対策実行計画を着実に実行することにより、環境に負荷をかけないまちづくりを進める必要がある。

# 413 環境教育・環境学習の推進



担当課 環境推進課  
 関連課 —

## 目指す姿

環境学習・環境教育を推進するため、市民などの環境意識が高揚し環境美化を推進するための取組が行われている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P98》

### 指標 1



#### 環境美化ポスターの応募者数（人）

市内の小学生を対象に、環境美化をテーマに募集しているポスターの応募者数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
226	229	251	200

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

### 【新規】

### 【継続】

- ・環境審議会を2回開催した。
- ・市民団体との協働及び活動支援を行った。
- ・環境施策実施年次報告「朝霞の環境」及び「朝霞市環境基本計画 実施計画」を発行した。
- ・市民等を交えた市内一斉清掃活動である「きれいなまちづくり運動」を、春と秋の2回実施した。
- ・環境美化推進員による市内美化活動及び、路上喫煙・ポイ捨て防止キャンペーンを実施した。
- ・環境美化活動等に貢献した団体等を表彰を行うため自治会等に推薦を依頼した。
- ・不法投棄監視パトロール等の不法投棄対策を実施した。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【環境審議会】

- ・（「朝霞の環境」及び「環境基本計画実施計画」が、第3次朝霞市環境基本計画に伴い、内容や掲載順が変更になったため）体裁を整えたり、QRコードの説明や、資料編に詳細説明がある場合にページ案内を入れるなどの工夫を施し、分かり易いものにして欲しい。

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・指標1については、年度目標を大幅に上回ることができた。今後においても、小・中学生が環境問題に対して関心を持ってもらえるよう、継続して環境学習や環境教育の機会の提供に努める。
- ・各実施事業については、例年どおりに実施することができた。

### 【外的要因】

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

環境問題の多くは、日常生活や事業活動等に起因していることから、すべての人が各々の立場で取り組みを進めることが必要であるため、今後も継続して環境教育や環境学習を推進して行く必要がある。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	環境推進総務事務事業	13,451	12,607	14,083	継続
2	環境美化事業	18,918	19,970	21,235	継続
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		32,369	32,577	35,318	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
32,369	32,577	35,318

## 6 現状と課題の分析

広報あさかや市ホームページへの環境関連記事の掲載、市環境施策実施年次報告書「朝霞の環境」の発行や「きれいなまちづくり運動」の開催等を通じて、市民や事業者の環境意識の向上を図っているが、効果が見えにくい。そのため、市民等が必要としている環境情報を的確に把握し、環境学習・環境教育の推進に反映させていることが課題である。

## 7 今後の展開

- ・第3次朝霞市環境基本計画の施策を着実に進めるとともに、引き続き、市民等への情報提供を積極的に行い、市民団体等への活動支援などの協働を継続する。
- ・市民等への意識啓発や関係機関との連携を図り、不法投棄監視パトロールや美化推進委員による美化活動等を継続し、環境美化の推進に取り組んで行く。

## 8 行政と市民の役割分担

環境問題の多くは、すべての人の日常生活や事業活動等によって引き起こされていることから、各々の立場で環境問題への取り組みを進める必要である。市は積極的に環境学習などの機会の提供と啓発を行っていく。また、市、市民、事業者で密接に連携しながら、継続した環境保全活動に取り組んで行く。

## 9 所管部の総括

環境学習・環境教育を推進していくためには、市民や事業者と環境情報や環境問題を共有する必要がある。また、市民等の環境意識が向上するような取組の継続が大切である。そのため、市民等へのわかりやすい情報提供を積極的に行い、市民団体等への活動支援を継続するとともに、その内容について改善していく必要がある。

# 421 ごみの減量・リサイクルの推進



担当課 資源リサイクル課  
 関連課 —

## 目指す姿

ごみの減量及び再資源化の推進を図ることにより、循環型社会が構築されている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P100》

### 指標 1

市民一人当たりごみ排出量 (g/日)

限られた資源を有効に活用し、環境への負荷を低減させるため、ごみの減量化を目指す。

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
577	558	536	462

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・街頭啓発活動を市主催イベント開催時に併せて実施した（ごみ分別アプリの利用促進、雑がみの分別について啓発）。
- ・（公財）古紙再生促進センターと連携して、古紙再生啓発パネルの展示を行った（街頭啓発活動及びリサイクルプラザ内に掲示）。
- ・『第6次朝霞市一般廃棄物処理基本計画』を策定した（計画期間：R6～R15）。
- ・ごみ分別冊子（簡易版）を広報あさかと共に全戸配布した。

### 【継続】

#### 【啓発事業】

- ・6月は環境月間に合わせて、水切りネットを配布。7月は小学生向けに3R啓発事業（手すきはがき作り）実施。10月は3R推進月間として、ごみの減量、適正排出の啓発。11月はごみ分別キャンペーンとして、適正分別の啓発を実施。
- ・市民活動団体と協働で作成した「ごみ分別アプリ」の情報発信を行った。
- ・市ホームページに、ごみ分別辞典の5か国語版（英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・ベトナム語）の掲載及び再資源化の状況等の周知・啓発に努めた。
- ・事業系ごみ削減の啓発を行った。

#### 【地域リサイクル活動推進補助金】

- ・資源物回収団体へ補助金を交付した。

#### 【リサイクルプラザにおける啓発事業】

- ・フードドライブ、制服リサイクル、環境関連図書の貸出などの事業を実施した。
- ・市内の家庭から引き取った不用品家具類をリサイクルプラザのシルバー工房で清掃・補修し、展示販売を行った。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【廃棄物減量等推進審議会】

- ・ごみの総排出量は減少しているが、引き続き、分別啓発・リサイクルの推進に向けた取り組みが必要である。
- ・ごみの減量化には、ごみ処理の状況について市民の認知度を上げていく必要がある。
- ・ペーパーレス化の進展等により資源回収量が減少しているが、今後何らかの対策が必要である。
- ・事業ごみの減量化に向けて、立入調査による実態把握や適正排出の指導等に努めること。

### 【外部評価委員会】

- ・リサイクルプラザについて、市が運営するのであれば、時代の変化を踏まえ、アプローチの仕方を見直したり、展示テーマを絞ったりなど、有効な使い方を検討する必要があるのではないかと。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・事業ごみ排出量は増加しているが、家庭ごみは減少している。
- ・市民で構成されたリサイクルプラザ企画運営協議会との協働による講座を4回開催した。

### 【外的要因】

社会情勢がコロナ禍以前に戻ってきたこともあり、家庭ごみは減少しているが、事業系ごみは増加傾向が続いている。

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・循環型社会の構築には、市民や事業者の協力が不可欠であるため、意識啓発の必要性は高い。
- ・今後もごみの適正分別、再資源化を推進していく必要がある。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	ごみ減量・リサイクル推進啓発事業	7,878	5,654	7,209	継続
2	廃棄物減量等推進審議会運営事業	3,288	3,320	4,839	継続
3	リサイクルショップ運営事業【再掲】	-	-	-	継続
4	リサイクルプラザ運営事業【再掲】	-	-	-	継続
5	リサイクルプラザ管理事業【再掲】	-	-	-	継続
6	リサイクル家具類販売事業【再掲】	-	-	-	継続
7	ごみ減量・リサイクル推進補助事業	14,261	12,219	11,293	継続
8	塵芥処理事務事業	13,094	8,806	12,922	継続
9	一般廃棄物処理基本計画策定事業	-	16,103	9,300	休止・廃止
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		38,521	46,102	45,563	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
38,521	46,102	45,563

## 6 現状と課題の分析

- ・家庭ごみ排出量は減少であるが、事業ごみは増加傾向が続いている。
- ・単身世帯や外国人居住者の集合住宅において、分別不良のまま集積所に排出されることが多いため、排出ルールの啓発や、市民・事業者・行政の3者による取組みを引き続き行っていく必要がある。

## 7 今後の展開

- ・分別の徹底による再資源化への取組みや地域リサイクル活動補助金による集団回収の利用促進を図っていく。
- ・第6次基本計画に基づき様々な施策を展開し、ごみの減量及び再資源化を推進していくほか、適正分別の啓発にも努めていく。
- ・食品ロスの排出抑制と減量化の推進について、市民及び事業者の意識を高め、家庭及び事業所からの排出抑制と減量化に取り組んでいく。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・市民・事業者・行政が一体となって、循環型社会の構築を目指す。
- ・市民で構成された「リサイクルプラザ企画運営協議会」との協働による講座を開催する。

## 9 所管部の総括

家庭ごみは減少が続いているが、事業ごみは増加傾向にあるため、今後の社会情勢などに注視しながら、状況に応じた施策展開を進めていく。



# 422 ごみ処理体制の充実



担当課 資源リサイクル課  
 関連課 —

## 目指す姿

・効率的な収集運搬体制の確立を図り、ごみ処理施設の適切な維持管理及び運転管理を行うとともに、計画的な最終処分場の確保に努めることにより、ごみ処理体制の充実が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P100》

### 指標 1

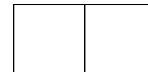


#### ごみ焼却処理施設の稼働率（%）

適切な保全により処理能力低下を防止し、H26～30年度平均値の97.6%に対して3%以上低下させないよう維持する（稼働率 = 稼働日数 / 年間日数）

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
98.1	98.1	98.4	94.6

### 指標 2



—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

（This section is currently blank in the provided image, indicating no new initiatives were implemented during the period covered by the report.)

### 【継続】

- ・効率的な収集体制を維持し、家庭ごみの収集運搬業務を委託により実施した。
- ・中間処理後、再資源化を実施した。  
 焼却灰3,392t(埋立処理970t、再資源化処理2,422t)  
 不燃残渣等2,154t(埋立処理113t、資源化処理2,041t)
- ・ごみ焼却処理施設の各種修繕・工事、その他各種設備機器の点検整備を実施した。
- ・朝霞和光資源循環組合へ、新ごみ焼却処理施設建設に必要な費用を負担した。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

【第6次基本計画策定に伴う市民説明会など】

・子どもの意識が高くなれば家庭における分別マナーは改善されるので、小学校低学年を対象にグリーンセンター見学を行ってみたいかどうか。市の取り組みのPRにもつながる。

【外部評価委員会】

・リサイクルプラザについて、市が運営するのであれば、時代の変化を踏まえ、アプローチの仕方を見直したり、展示テーマを絞ったりなど、有効な使い方を検討する必要があるのではないか。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

・効率的な収集体制を維持し、ごみ処理施設の安全かつ適切な運転と維持管理を行うとともに、最終処分場の確保や再資源化に努めるなど、ごみ処理体制の充実を図る。

### 【外的要因】

（This section is currently blank in the provided image, indicating no external factors were reported.)

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

・効率的な収集体制を維持しつつ、焼却灰等の再資源化を更に推進し、循環型社会の形成に努める必要がある。

・ごみ処理の新施設建設に向け、継続して負担金の支払いや検討を行う必要がある。

・可燃ごみと粗大ごみ処理施設は、新施設稼働開始までの間、現施設を適切に維持管理する必要がある。

・プラスチック類処理施設とあき缶資源化施設については、当面の間広域化の対象外施設となっているため、計画的な工事等により、令和12年度以降も安定的に稼働する必要がある。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	グリーンセンター維持管理事業	118,102	145,203	163,955	継続
2	可燃ごみ処理事業	713,302	903,039	852,709	継続
3	資源ごみ処理事業	403,335	406,832	415,963	継続
4	清掃総務事務事業	40,231	8,914	11,444	継続
5	粗大ごみ処理事業	108,696	105,415	99,170	継続
6	朝霞地区一部事務組合負担事業（し尿処理）	27,158	25,805	28,255	継続
7	不燃ごみ処理事業	134,955	120,077	135,142	継続
8	塵芥処理事務事業【再掲】	-	-	-	継続
9	朝霞和光資源循環組合負担事業	141,771	112,141	126,399	継続
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		1,687,550	1,827,426	1,833,037	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
1,687,550	1,827,426	1,833,037

## 6 現状と課題の分析

- ・集積所へ不適切に排出された不法投棄物は、そのまま放置されると集積所周辺の生活環境が悪化するため、集積所パトロールや啓発等により、適正な排出を促す必要がある。
- ・ごみ処理施設の状況を把握し、計画的な点検、修繕や工事等を実施し、適切に維持管理する必要がある。

## 7 今後の展開

- ・効率的な収集運搬体制を維持し、ごみ処理施設の安全かつ適切な運転と維持管理を行うとともに、最終処分場の確保に努めるなどごみ処理体制の充実を図る。
- ・施設設備の計画的な点検、修繕、工事等を実施し現ごみ処理施設の有効活用を努める。
- ・引き続き、朝霞和光資源循環組合へ、新ごみ処理施設建設に必要な費用を負担する。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・行政は、市民へごみの適正排出について啓発し、市民は適正排出に努める。
- ・行政は、事業者へ適正排出や再資源化について啓発し、事業者は適正排出や資源化に努める。

## 9 所管部の総括

- ・和光市とのごみ処理広域化については、すべての用地取得が完了。令和6年度は再度入札手続を行い事業者と契約締結し着工に向けた準備を進め、令和12年度の新施設稼働開始を目標に業務を進めていく。
- ・新ごみ処理施設が稼働するまでの間、安定的なごみ処理を実施するとともに、焼却灰などの再資源化を進め環境への負担軽減を図る。

# 511 市街地の適正な利用



担当課 まちづくり推進課  
 関連課 道路整備課、産業振興課

## 目指す姿

まちの限られた土地資源が有効に配分され、鉄道駅周辺など公共交通機関の利便性の高い地域を中心に市街地がまとまり、住宅系、商業・業務系、工業系のそれぞれの土地利用が適正に行われ、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を行えるまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P112》

### 指標 1

#### 区画道路整備延長 (m)

暫定逆線引き地区の区画道路の整備済み延長と整備率

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
853	853	853	3,756

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・インターネットで情報収集が可能となるGIS（地理情報システム）を導入した。
- ・朝霞駅南口周辺地区の交通安全対策に係る基本構想の策定に着手した。（WS：2回開催 延べ4日間）
- ・駅西口富士通線等のウォークブル空間整備に向け設計に着手した。

### 【継続】

- ・北朝霞・朝霞台地区のエリアプラットフォーム（官民連携組織）の構築や、未来ビジョンの策定に向けて検討。
- ・道路、歩道用地の買収及び土地開発基金への繰戻しを実施。
- ・生活道路の拡幅整備のため、市道の改良工事を行った。
- ・都市計画審議会を開催するとともに、緑や景観の保全に努めた。
- ・朝霞駅周辺地区において「居心地が良く歩きたくなるまちなか」や「商業活性化」をテーマにイベントを実施。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【外部評価委員会】

- ・みどりのまちづくりに積極的に取り組んだことで、シンボルロードなども魅力的な取組として成果を挙げているが、それがシティプロモーションに生かされていない。これからはシンボルロードを歩く人が訪れるような取組に発展させることが重要である。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・北朝霞・朝霞台地区においては未来ビジョンβ版を策定した。
- ・道路整備基本計画に位置付けられた拡幅路線の買収を行うことができた。
- ・用地を取得した箇所から順次、道路改修工事設計や改修工事を実施することができた。
- ・都市計画審議会において、予定通り審議すべき案件を付議することができた。

### 【外的要因】

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・旧暫定逆線引き地区内の土地区画整理事業の完了により、良好な住環境の基盤整備が進み、今後も波及効果が期待される。
- ・道路整備基本計画や無電柱化推進計画に基づき、歩道整備や交通安全対策、防災面の向上、沿道緑地やベンチの整備など、快適な道路空間の形成が期待される。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	都市計画総務事務事業	118,323	124,599	187,168	継続
2	道路用地取得事業	352,932	207,331	160,771	継続
3	道路改良事業【再掲】	-	-	-	継続
4	都市計画マスタープラン策定事業	-	-	8,178	継続
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		471,255	331,930	356,117	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
471,255	331,930	356,117

## 6 現状と課題の分析

- ・厳しい財政状況等を踏まえ、選択と集中の観点から効率的な道路整備を推進する必要がある。
- ・地区計画などにより、地区ごとにふさわしい良好なまちづくりを進める必要がある。
- ・橋梁、歩道橋等の整備では、長寿命化計画に基づき改修等を進める必要がある。
- ・安全な歩行空間の確保など、人中心のまちなかづくりを推進する必要がある。

## 7 今後の展開

- ・道路整備基本計画に基づき、歩道整備や交通安全対策のほか、無電柱化や街路樹の管理等についても検討し施策を推進する。
- ・ウォークブル推進都市として、ベンチや休憩施設の設置など、人中心の居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指す。
- ・地区計画や土地区画整理事業など、計画的な市街地整備を支援する。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・地域の実情に即したまちづくりや市街地整備を進めるとともに、先進事例の調査やコスト削減に向けた工夫、また行政・商店会等のイベント情報の発信を行う。
- ・官民連携によるまちづくりを推進し、ウォークブル空間の整備や魅力的な商業エリアの形成などを図る。
- ・個別計画の策定や景観づくりの推進等に当たっては、市民や景観づくり団体等から意見を聴く機会を設け、市民・事業者等と連携・調整を図る。

## 9 所管部の総括

道路整備基本計画に基づき、道路拡幅のみならず橋梁や歩道橋の長寿命化対策、街路樹など道路緑化による緑のネットワークの形成や無電柱化の推進、にぎわいとコミュニティ形成の場として道路空間の実現などを推進していく。

また、ウォークブル推進都市として、シンボルロードをはじめ、道路や公園等、公共空間の利活用に係る施策や官民連携のまちづくりを推進していく。

# 512 市街地周辺の適正な利用



担当課 まちづくり推進課  
 関連課 政策企画課、みどり公園課、道路整備課

## 目指す姿

市街地の周辺に指定されている市街化調整区域では、市街化を抑制し優良な農地や良好な自然的環境を維持・保全することを基本とし、緑地・自然環境と調和した、地域特性に応じた適正な利用が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P112》



### 指標 1

#### 市街化調整区域の適正な土地利用（一）

目標年度において実施されている具体的な土地利用の内容

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
—	—	—	国道254号バイパス周辺の適正な土地利用

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

### 【継続】

- ・冒険遊び場づくりをNPO法人朝霞プレーパークの会に委託
- ・都市公園において移動プレーパークを実施
- ・緑化推進会議を開催
- ・緑化推進奨励金を交付
- ・緑地ボランティアの支援
- ・シンボルロードの維持管理を行うとともに、官民連携によるイベント(アサカストリートテラス、あさか冬のあかりテラス)を実施するなど、まちなかのにぎわい創出に資する利活用を行った。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

・みどりのまちづくりに積極的に取り組んだことで、シンボルロードなども魅力的な取組として成果を挙げているが、それがシティプロモーションに生かされていない。これからはシンボルロードを歩く人が訪れるような取組に発展させることが重要である。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・シンボルロードは令和2年2月の供用開始以降、広大な緑の屋外空間として市民から親しまれ、様々なイベントを開催している。
- ・朝霞の森運営会議を開催した。
- ・農業従事者の死亡等により生産緑地の指定解除が多くなっている。また保護地区及び保護樹木の新規指定は進んでおらず、指定面積及び指定本数は増えていない。
- ・都市計画審議会に付議した案件は全て議決することができた。

### 【外的要因】

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・樹林地や樹木の伐採が進んでおり、緑地の減少に伴う緑の保全に対する要望が増加することや、維持管理には多額の費用がかかるため、持続可能な管理には市が保全に関与するとともに、市民協働での管理についても検討していく。
- ・基地跡地に対する市民の関心を高める機運を醸成するために、朝霞の森の管理運営を市民と協働で行う必要がある。



## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	都市計画総務事務事業【再掲】	-	-	-	継続
2	緑化推進事業【再掲】	-	-	-	継続
3	基地跡地整備基金積立事業	3,353	1,811	1,075	継続
4	基地対策事業	3,032	1,860	2,238	継続
5	基地跡地暫定利用事業	14,162	18,103	17,895	継続
6	シンボルロード管理事業	33,725	43,062	41,531	継続
7	道路施設修繕事業【再掲】	-	-	-	継続
8	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	-	-	-	継続
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		54,272	64,836	62,739	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
54,272	64,836	62,739

## 6 現状と課題の分析

- ・市内に残された貴重な自然を保全し有効活用するためには、市民や土地所有者との連携・協働が必要であり、意見交換会などの機会を確保していく必要がある。
- ・賑わいの創出や居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりのため、道路、公園、広場など、公共空間の有効活用について官民が連携して取組を検討していく必要がある。
- ・保護地区及び保護樹林は、本市における貴重な緑であり、保全に欠かさないものであることから、いかに存続していくか、対策の検討が必要である。

## 7 今後の展開

- ・環境の保全、防災、景観の形成など多様な機能を持つ貴重な緑を保全していくとともに、市街地における緑化を推進していく。
- ・道路や公園など、公共空間の利活用について周辺エリアと連携しながら検討し、まちなかウォークアブルや賑わいを創出する取組を進める。
- ・国道254号バイパスの2期整備が進む中、今後の沿道のまちづくりに向けた土地利用の課題や留意点をまとめた手引き（案）について、住民等の意見を聴きながら引き続き検討していく。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・市民ボランティアを募集、育成、活用しながら市民意識を醸成し、自然の大切さと必要性を理解することで、緑や自然環境の保全、また公園の管理や運営を行っていく。
- ・シンボルロード周辺エリアについて、さらなる魅力向上に向けて、イベントの実施など官民連携や協働の取組を推進する。

## 9 所管部の総括

- ・市街地と自然環境との調和については、黒目川をはじめ、河川沿いの緑や水辺など優れた自然環境や優良な農地が残されており、これらをできる限り保全していくとともに、地域の状況に応じて、適切な土地利用が行われるようにしていく必要がある。
- ・道路や公園など、公共空間の利活用については、周辺エリアと連携するとともに、活用しやすい仕組み作りや場の創出、多様な方々が関心を持ち、関わりが持てるよう官民連携の取組を進めていく。
- ・国道254号バイパス沿道については、地域の活性化に資する土地利用の検討を進める。

# 531 まちの骨格となる緑づくり



担当課 みどり公園課

関連課 まちづくり推進課、産業振興課、農業委員会事務局

## 目指す姿

子どもから高齢者までの幅広い世代が、都市における公園や緑のオープンスペースで自然とふれあい、レクリエーション活動、健康運動、文化活動などの活動を行っている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P118》

### 指標 1

市内全域における緑被面積の割合（％）

5年ごとに調査する緑被面積調査による市内全域の緑被面積の割合

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
37	37	35	37

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・内間木公園拡張整備基本構想を策定した。
- ・（仮称）宮戸二丁目公園、まぼりひがし公園、まぼりみなみ公園について、グリーンインフラの考え方を取り入れた設計を実施した。
- ・都市農地の保全を図るため、生産緑地の追加指定基準に再指定の規定を設けた。
- ・市内の動植物を紹介する「朝霞生き物マップ」を更新した。

### 【継続】

- ・生産緑地地区の追加指定を実施し、都市計画決定を2回行った。
- ・ナラ枯れ被害から樹木を守るため、樹木調査を実施し、被害木の伐採を行った。
- ・市内で生物や植物保全に関する活動をしている団体で構成される生物多様性市民懇談会を開催し、情報交換を行った。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【緑化推進会議】

みどりの基本計画及び花とみどりのまちづくり構想に基づき、的確に施策を推進していくこと。

### 【外部評価委員会】

公園でのボール遊びについて、一部で制限されているのは理解できるが、一方でボール遊びができる公園を求める声もあることから、一部で試験的に実施するなど、実施に向けた検討を進める必要がある。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・市民ボランティア団体と協働で、特別保全地区や緑地、公園の維持管理を行った。
- ・公園管理ボランティアが2団体増え、24団体となった。
- ・（仮称）宮戸二丁目公園、まぼりひがし公園、まぼりみなみ公園の整備に当たり、ワークショップを開催し、市民の声を聴きながら設計に反映することができた。
- ・内間木公園拡張整備検討委員会を4回実施し、基本構想を策定することができた。

### 【外的要因】

- ・主要な緑である樹木・樹林は、公園や街路樹、公共施設等の公共の緑と、住宅地や事業者等の私有地の緑がほぼ同量を占めており、私有地の緑も重要な存在となっている。
- ・コロナを契機として、公園などのオープンスペースの重要性が再認識された。

## 4 必要性

1 2 3 ④ … 社会的なニーズは増加傾向にある

良好な景観を形成する緑と水辺の連続性を高めていくために、街路樹、生け垣、河川等の緑と水辺によって、公園や樹林、農地等の拠点となる緑と水辺をつなぐエコロジカルネットワークを形成するとともに、市民が愛着と誇りを持つまちなみをつくっていくため、街路樹をはじめとする公共の緑を適正に管理し、美しく育てていくことが必要である。また、私有地の樹木・樹林が、公共の緑と同様の割合を占めていることから、市民や事業者と協力して、緑の量を増やすとともに、質についても充実させることが必要である。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	みどりのまちづくり基金積立事業	8,069	3,686	3,744	継続
2	緑化推進事業	37,632	34,789	61,788	継続
3	都市計画総務事務事業【再掲】	-	-	-	継続
4	生産緑地管理事業	5,780	5,208	5,339	継続
5	市民農園事業【再掲】	-	-	-	継続
6	農業委員会運営事業【再掲】	-	-	-	継続
7	公園管理事業	229,782	224,547	227,411	継続
8	公園施設改修事業	83,802	113,807	211,978	継続
9	児童遊園改修事業	9,615	9,433	9,606	継続
10	児童遊園管理事業	60,502	70,581	64,263	継続
11	内間木公園拡張整備基本構想等策定事業	-	17,424	16,363	継続
12	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	-	-	-	継続
13	(仮称)宮戸二丁目公園整備事業	-	16,231	678,361	継続
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		435,182	495,706	1,278,853	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
435,182	495,706	1,278,853

## 6 現状と課題の分析

・本市の主要な緑である樹木・樹林は、公園や街路樹、公共施設等の公共の緑と、住宅地や事業者等の私有地の緑がほぼ同量を占めており、私有地の緑も重要な存在となっている。また、緑の量的確保のみならず、適正な維持管理による質の向上を図る必要がある。

## 7 今後の展開

・良好な景観を形成する緑と水辺の連続性を高めていくために、街路樹を整備、育成・管理し、公園や樹林、農地等エコロジカルネットワークの拠点となる緑と水辺をつないでいく。また、それらのネットワークの間に位置する住宅地や商業地等の私有地において、花壇や生け垣の設置等により緑を充実させ、身近な緑と水辺のネットワークを創出していく。

・緑化意識の高揚を図るため、公園利用者や市民が花や緑に触れる楽しみを感じることができる事業を推進していく。

## 8 行政と市民の役割分担

緑豊かな環境を創出する上で、公共施設が先導的な役割を果たすために、市が管理する緑と水辺の適切な維持管理や公共施設の緑化を推進する。また、私有地にある緑等については、開発事業等における緑化の指導を推進するとともに、花壇や生け垣等の設置、保護地区や保護樹木への支援を行う。また、引き続き市民や事業者との連携、協働を図っていく。

## 9 所管部の総括

・本市の緑は減少傾向にあり、緑の量を確保していくと同時に、緑の質を高める取組として、市民や事業者等と行政で、緑の魅力や価値を共有し、協働により、地域全体で緑を守り、育てていくため、みどりの基本計画及び花とみどりのまちづくり構想に基づき、施策を着実に実施していく。

・市内に残る貴重な緑を継続的に保全していくため、市民と連携して管理していくとともに、私有地の緑地についても適切な支援のあり方についての検討や、当初指定の生産緑地地区を都市農地として継続的に保全していくため、特定生産緑地地区に指定していただけるよう努めていく。

・景観計画に基づく施策を着実に実施していく。

# 532 うるおいのある生活環境づくり



担当課 みどり公園課

関連課 まちづくり推進課、道路整備課

## 目指す姿

市内の緑地や河川で多様な生物を見ることができ、多くの市民が緑や水辺に親しんでいる。

まち・ひと・しごと目標 基本目標2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる  
(ア) 暮らしやすさが実感できる都市機能の充実

《後期基本計画冊子 P119》



指標1 【まち・ひと・しごと】

公園・緑地管理ボランティア団体数（団体）

公園や緑地を管理する市民ボランティア団体数

指標2

-

-

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
21	22	24	25

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・シンボルロード版使い方ガイドブックを作成した。
- ・シンボルロードの樹木管理に関するルールの検討を開始した。

### 【継続】

- ・黒目川桜並木の維持管理を行った。
- ・朝霞の森秋まつりを開催した。
- ・緑化推進会議、生物多様性市民懇談会を開催した。
- ・わくわくどーむ前のふれあい花壇の維持管理を行った。
- ・シンボルロード管理運営を考える会議を開催した。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

該当なし

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- (説明)
- ・ボランティア団体の総数としては、令和5年度は、2団体増え、24団体となった。  
(公園等管理ボランティア19団体、緑地管理ボランティア5団体)
  - ・シンボルロード版使い方ガイドブックを作成した。

### 【外的要因】

公園や緑地等の管理の担い手は、市民ボランティアである。今後も市民にボランティア活動について関心をもっていただけるように努める。

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

朝霞らしい魅力のある景観をつくり、守っていくために、黒目川の景観を保全するとともに、斜面林や水辺に親しむ場の創出をさらに進める必要がある。また、生物多様性の保全、景観形成の観点から緑地を適切に管理していくため、管理の担い手を育成し、技術を伝承していくことや、市民、事業者との連携、協働により、みどりを守り、育てる担い手を増やしていく必要がある。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	花の植栽事業	8,029	8,779	8,511	継続
2	黒目川桜並木管理事業	5,101	5,535	6,640	継続
3	都市計画総務事務事業【再掲】	-	-	-	継続
4	緑化推進事業【再掲】	-	-	-	継続
5	基地跡地暫定利用事業【再掲】	-	-	-	継続
6	公園管理事業【再掲】	-	-	-	継続
7	内間木公園拡張整備基本構想等策定事業【再掲】	-	-	-	継続
8	(仮称)宮戸二丁目公園整備事業【再掲】	-	-	-	継続
9	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	-	-	-	継続
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		13,130	14,314	15,151	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
13,130	14,314	15,151

## 6 現状と課題の分析

- ・緑が減少傾向にあるため、緑を市民、事業者との連携、協働で守り育て、質の維持・向上を図っていく必要があるが、担い手となる市民ボランティアの高齢化が進んでおり、参画者の裾野を広げていくことが課題である。
- ・市内の緑地等の樹木の老木化や巨大化、カシノナガキクイムシによる枯損が進んでおり、今後の樹木管理が課題である。

## 7 今後の展開

本市で保全されている緑と水辺の質を適切な管理により維持、向上していくため、市民、事業者と連携、協働して緑地管理等のボランティア活動を推進していくとともに、より多くの市民・事業者が参加できる機会を創出し、みどりを守り、育てる担い手を育てる。また、市民が緑と水辺に親しむことができる環境を引き続き確保していく。令和6、7年度で、令和8年度からのみどりの基本計画の改訂について検討していく。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・潤いのある生活環境づくりを進める上で公共施設が先導的な役割を果たすために、県と連携して黒目川等の河川の景観や環境を維持するとともに、市が管理する緑と水辺の適切な維持管理や公共施設の緑化を推進する。また、市民、事業者が行う植樹等の事業や樹林地の管理活動をはじめとする緑地保全、緑化推進、景観形成等を支援する。

## 9 所管部の総括

- ・本市には、市民に親しまれている黒目川をはじめとする河川、台地の縁に残る斜面林、多くの湧水地など、豊かな緑や水辺が残されている。しかしながら、緑の減少傾向が続いており、緑等の量を確保するとともに、質を維持、向上させていくことが重要である。
- ・生活に潤いをもたらすためにも、市民が緑等に親しめる環境を確保していく必要がある。このため、みどりの基本計画、花とみどりのまちづくり構想及び景観計画に基づく施策を着実に実施するとともに、今後も市内に残る貴重な緑を継続的に保全していくため、みどりを守り、育てる担い手となる市民等と一層の連携を検討していく。



# 533 まちの魅力を生み出す景観づくり



担当課 まちづくり推進課

関連課 開発建築課、みどり公園課、道路整備課

## 目指す姿

朝霞らしい魅力ある景観をみんなでつくり、守ることで、誰もが住み続けたい、訪れたいと感じられるまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P119》



### 指標 1

景観の満足度 (%)

市民意識調査の結果報告書の景観の満足度（満足している、まあ満足しているの合計割合）

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
—	—	—	55

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

### 【新規】

- ・景観づくり重点地区である黒目川沿川のベンチ 6 基を景観づくり団体によりリニューアルした。
- ・シンボルロード市役所前広場と市役所花の池テラスに、デザイン性のある雲形ベンチ 4 基が寄贈された。

### 【継続】

- ・みどり豊かなまちづくりに資する寄附型自販機を市内公共施設 6 か所に設置し、売上金の一部をみどりのまちづくり基金に寄附・黒目川桜並木の清掃、除草、遊具等点検及び仮設トイレの設置、提灯及び灯籠の設置などを行った。
- ・みどりのまちづくり基金の募金活動及びPR活動を実施した。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

該当なし

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

- ・景観形成補助金を景観づくり団体に交付した。
- ・みどりのまちづくり基金については、寄附型自販機による売上金の一部の他、寄付金・募金額により目標を達成した。
- ・建築基準法における完了検査について、受検した全てが合格となり、良好な建築行政の運営が図られた。

### 【外的要因】

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・朝霞ならではの魅力ある景観を形成し、住みたい、住み続けたいまちとしていくため、景観計画に位置付けられた施策を着実に実施するとともに、景観審議会や景観づくり団体等との意見交換会を継続的に実施する必要がある。



## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	景観まちづくり推進事業	17,015	10,086	5,776	継続
2	都市計画総務事務事業【再掲】	—	—	—	継続
3	みどりのまちづくり基金積立事業【再掲】	—	—	—	継続
4	黒目川桜並木管理事業【再掲】	—	—	—	継続
5	建築行政事業【再掲】	—	—	—	継続
6	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	—	—	—	継続
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		17,015	10,086	5,776	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
17,015	10,086	5,776

## 6 現状と課題の分析

- ・景観まちづくりは、地域の実情に沿った個性あるまちづくりを推進するため、市民参加は必要不可欠であり、市民・事業者・行政が連携、協働して取り組んでいく必要がある。
- ・特別緑地保全地区等の緑地の管理を市民団体が担っているが、高齢化が進んでおり後継者の育成等が必要である。今後は、さらに市民参画を高めていく必要がある。

## 7 今後の展開

- ・景観計画に位置付けられた施策の推進に向けて、景観審議会の開催及び景観づくり団体との意見交換会を継続的に開催するとともに、市民・事業者・行政の連携、協働を進める事業を引き続き検討する。
- ・黒目川桜並木や黒目川まるごと再生プロジェクトで整備された広場等の管理を適切に行う。
- ・シンボルロード周辺エリアは公共空間の利活用を軸に、居心地が良く歩きやすくなるまちなか形成や魅力あるエリア創出などを目指す。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・景観まちづくりは、市民・事業者・行政が協働で取り組む必要がある。
- ・景観重点地区であるシンボルロード周辺エリアについては、様々なステークホルダーが集い、公園、街路等のパブリック空間の活用を軸とした新しいまちなかづくりについて、官民連携で取組を進める必要がある。

## 9 所管部の総括

- ・良好な景観形成のため、景観重点づくり地区等において適切に制度の運用を実施するほか、景観形成補助金等の支援制度の周知活用を図る。
- ・景観づくり団体との連携を図り、市民・事業者・行政による景観づくりを支援していく。
- ・景観意識の醸成に向け広報、ホームページ、SNS等を通じて景観計画や各種制度の周知を図る。

# 534 循環型社会を目指した環境にやさしいまちづくり



担当課 まちづくり推進課

関連課 環境推進課、下水道施設課、道路整備課

## 目指す姿

自然との共生や地球環境への負荷を軽減する観点から、全ての人や生き物にやさしく、環境面への配慮が行き届いたまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P119》

### 指標 1

雨水流出抑制施設設置割合（％）

開発事業件数に対する雨水流出抑制施設の設置割合

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
100	100	100	100

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実施内容

【新規】

【継続】

- ・市民からの通報や職員のパトロールにて発見した、水路に泥が堆積している箇所の清掃を委託した。
- ・環境に配慮した創エネ・省エネ設備の普及を推進するため、太陽光発電システム、エネファーム、蓄電池、雨水貯留槽、HEMS、V2Hの設置費用に対し補助金を交付した。
- ・市有施設の屋根貸しによる太陽光発電を、3施設で継続実施した。
- ・市役所公用車駐車場に設置している電気自動車用急速充電器を利用者に有料で提供した。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

該当なし

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・太陽光発電システムや蓄電池、雨水貯留槽等の設置に対し補助金を交付し、地球温暖化対策を推進することができた。
- ・水路の清掃などを適切に行うことにより、水害の被害を抑制することができた。
- ・谷津地調整池において志木市が維持管理で支出した費用について、負担割合に応じて支出した。
- ・市内公共施設での温室効果ガスの排出の削減を行い、市が先導して温暖化対策に取り組む姿勢を示している。

【外的要因】

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・近年、多発するゲリラ豪雨や台風など自然災害に対する危機意識が高まっている。
- ・市民の命と財産、安心と安全を守るため、雨水流出抑制対策の必要性は高い。
- ・温暖化対策を推進するため、温室効果ガスの排出を抑制することは、今後の重要な課題となる。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	水路管理事業	2,146	2,956	2,997	継続
2	再生可能エネルギー普及推進事業【再掲】	—	—	—	継続
3	都市計画総務事務事業【再掲】	—	—	—	継続
4	地球温暖化対策推進事業【再掲】	—	—	—	継続
5	都市計画マスタープラン策定事業【再掲】	—	—	—	継続
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		2,146	2,956	2,997	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
2,146	2,956	2,997

## 6 現状と課題の分析

- ・市民や事業者に地球温暖化について関心を持ってもらうため、継続して広報、ホームページ、SNS等を有効活用し、効果的な啓発を行う必要がある。
- ・水路への不法投棄が多いため、巡回や点検を適切に実施する必要がある。

## 7 今後の展開

- ・水路や柵の清掃など、適切な管理を行い、水害による被害を予防していく。
- ・循環型社会の構築を目指すため、温暖化対策（太陽光発電設置費補助、電気自動車用急速充電器有料利用、各種啓発活動）については引き続き実施する。
- ・次世代自動車の普及促進を図るため、市に設置している電気自動車用急速充電器の周知を図るとともに、創エネ、省エネ設備等の補助について近隣市の状況などを調査検討していく。

## 8 行政と市民の役割分担

- ・災害時には自助、共助、公助が互いに連携し一体になることで、被害が最小限になるとともに、早期の復旧・復興につながるものとなる。また、循環型社会の形成には行政、企業、個人がそれぞれの役割に応じて3Rを実践していくことが求められている。

## 9 所管部の総括

- ・道路や公園等の公共空間等の整備には、自然環境が有する多様な機能を活用するグリーンインフラの考えに基づき整備を推進していく。
- ・地球温暖化対策や循環型社会の形成には、行政・企業・個人がそれぞれの役割に応じて実践していくことが求められており、このため行政が率先して役割を示していくとともに、広報あさか、市ホームページ、SNS等の有効活用により、効果的な啓発を行う必要がある。

# 574 都市農業の振興



担当課 産業振興課

関連課 学校給食課、農業委員会事務局

## 目指す姿

農業後継者の育成がなされることにより、農業経営の安定化を図るとともに、地産地消の推進や食育への理解が深められている。また、農業体験事業による市民と農家との交流により、都市型農業の振興が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

《後期基本計画冊子 P129》

### 指標 1

認定農業者数（人）

農業経営基盤強化促進法に基づいて、効率的で安定した農業を目指すため作成する「農業経営改善計画」を市町村に提出して認定を受けた農業者数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
28	29	29	32

### 指標 2

—

—

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)

## 1 実 施 内 容

### 【新規】

### 【継続】

- ・浜崎農業交流センターを農産物直売組合に貸し出し、地場農産物を直売し、市民と農業者が交流を図ることができた。
- ・市内に市民農園6農園450区画を設置・管理し、市民に農作物栽培の場を提供した。
- ・地場野菜出荷用箱の購入費を補助し、地場野菜の振興を図った。
- ・地場野菜を学校給食に起用し、児童・生徒は新鮮な野菜を食している。また、これにより都市農業の振興が図られた。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

農業経営改善計画書の策定へのフォローアップが必要である。

## 3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

指標1については、ほぼ横ばいで推移している。  
認定農業者制度は、農業経営の安定につながることから、担い手育成に資するため、引き続き同制度を活用する。  
市民農園の利用率は、ほぼ100%であり、市民に農作物栽培の場を提供することができた。  
浜崎農業交流センターや市役所市民ホールでの農産物直売を実施して生産者と消費者の交流を図り、都市型農業の振興を図ることができた。

### 【外的要因】

農業祭は、好天であったことと屋外ステージを設けたことで、昨年以上の来場者数となった。

## 4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

市民が新鮮な農作物を求める需要は高いため、地産地消を推進し、農業者や農業団体の直売事業を支援する必要がある。  
都市農業は多様なメリットを有するため、農業体験などを通じて市民の理解を深め、都市農業を振興していく必要がある。

## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	農業祭事業	4,386	8,403	6,797	継続
2	農業振興支援事業	12,360	13,063	9,602	継続
3	農業総務事務事業	1,268	1,539	883	継続
4	浜崎農業交流センター運営事業	3,549	2,874	3,645	継続
5	学校給食運営事業【再掲】	—	—	—	継続
6	市民農園事業	10,525	8,142	8,984	継続
7	水利組合事業	3,228	2,092	1,316	継続
8	農家・農地基本台帳管理事業	8,112	6,616	8,379	継続
9	農業委員会運営事業	25,259	28,462	31,354	継続
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		68,687	71,191	70,960	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
68,687	71,191	70,960

## 6 現状と課題の分析

本市の農業は、都市近郊という立地背景から宅地化が進み、農地が年々減少傾向にある。また、農業従事者の高齢化や担い手不足などの課題もあり、遊休農地も見受けられる。引き続き、市民農園や農業体験などを通して農業への理解を醸成するとともに、担い手の育成も効果的に進めるほか、農地の利用状況調査及び遊休農地対策を行う必要がある。

## 7 今後の展開

- ・担い手育成のための認定農業者制度を活用する。また、地産地消を推進するための直売事業を支援する。
- ・農業体験事業や市民農園事業などを通して、市民の都市農業への理解を深める。
- ・農業委員会や農協等関係機関と連携して遊休農地対策を行うことにより、農地の保全を効率的に進める。

## 8 行政と市民の役割分担

市民農園による農作物栽培の場を提供することや農業体験を通じて、多くの市民に農業を触れ合う機会を提供していく。また、農産物直売による生産者と消費者の交流や、新鮮な野菜を市民に提供する取組を支援していく。

## 9 所管部の総括

あさか野農業協同組合等関係機関との連携を強化し、農業者の意欲の向上と市民の都市農業への理解を深め、さらなる地産地消の推進への取組を図る必要がある。



# 656 シティ・プロモーションの展開



担当課 シティ・プロモーション課  
 関連課 政策企画課

## 目指す姿

シティ・プロモーション方針に沿って、市民、関係機関、市内外事業者等と協力、連携しながら、行政だけでは実現し得ない魅力の創出を図るとともに、地域性、話題性のあるシティ・プロモーションを展開することで、まちへの愛着が醸成されている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる  
 (ウ) 市の魅力を発信するシティ・プロモーション

《後期基本計画冊子 P151》



### 指標 1

市に愛着を感じている市民の割合 (%)

市に愛着を「感じている」「どちらかといえば感じている」と答えた市民の割合

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
85.5	88.8	86.7	92.9

《まち・ひと・しごと P37》



### 指標 2

【まち・ひと・しごと】

市民との協働や事業者等との連携によるシティ・プロモーションの機会（累計）（回）

市民や事業者等と連携しながらシティ・プロモーションに関する取組を実施する回数

R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込み	最終年度目標 (R7年度)
21	39	49	15

## 1 実施内容

### 【新規】

- ・朝霞駅南口・東口及び北朝霞駅～朝霞台駅連絡通路に、新たなシティ・プロモーションサインを設置した。
- ・あさか冬のあかりテラス2023で、企業ブースに設置されたデジタルサイネージで流す「ぼぼたんからのメッセージ動画」を作成し提供した。
- ・朝霞市民プロモーションミーティングメンバーの、朝霞に暮らす日常にフォーカスした「わたしの"あさか時間"」を順次発信し、活動をまとめた冊子を発行した。

### 【継続】

- ・シティ・プロモーション方針に基づく3つの会議体の運営・サポートを行い、シティ・プロモーションの推進に努めた。
- ・朝霞市の魅力やイベント情報等を、SNSを活用して発信した。また、ぼぼたんが市内外のイベントに参加し、市のPRを行った。
- ・公園などを活用したロケーションサービスの調整を積極的に行い、市内でドラマの撮影が実施された。
- ・官民連携による参加型イベントを開催するなど、地域を盛り上げる取組を支援した。

## 2 審議会等第三者機関の評価・意見

### 【シティ・プロモーション委員会】

市民プロモーションミーティングの取組「わたしの"あさか時間"」は、市民の言葉で伝えていることにより訴求力がある。市外へもアプローチできるものなので、不動産事業者へも配架依頼をしてはどうか。

## 3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

### 【判断の根拠】

朝霞市の顔ともいえる駅前空間に、朝霞市のブランドタグラインやキャラクターを活用したサインを設置し、市内外へPRすることができた。

### 【まち・ひと・しごと】

他の機関等と連携して市の魅力をPRする事業の回数  
 主なもの：カインズ連携事業  
 世界キャラクターさみっとin羽生  
 志木市民まつり  
 コミュニティフェムなど 合計49回

### 【外的要因】

株式会社カインズとの協働や、コミュニティフェムによる市の情報番組など、市の持つ媒体のみではアプローチが難しい層へも魅力や情報を届けることができています。

## 4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

令和4年度のシティ・プロモーションアンケートや、令和5年度の市政モニターアンケートからは、朝霞市の魅力のひとつであるイベント情報などについて、もっとSNSを活用してほしいとの結果を得ている。タイムリーな情報発信は、地域参加への促しにつながり、地域への愛着醸成による定住促進へもつながるものと考えている。



## 5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

番号	施策を構成する事務事業名	総コスト（事業費+人件費 単位：千円）			今後の方向性※
		R3決算	R4決算	R5決算見込み	
1	シティ・プロモーション事業	17,435	24,837	22,635	継続
2	広報あさか発行事業【再掲】	-	-	-	継続
3	広報事業【再掲】	-	-	-	継続
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
計（単位：千円）		17,435	24,837	22,635	

総コスト（事業費+人件費）の  
経年変化 単位：千円

R3年度	R4年度	R5年度(見込み)
17,435	24,837	22,635

## 6 現状と課題の分析

イベント等の情報・魅力発信について、SNSや広報あさか、市掲示板の活用を望む声が多いことから、事業課への働きかけを積極的に行う必要がある。

## 7 今後の展開

・令和4年度実施のシティ・プロモーションアンケートの分析結果に基づき、愛着醸成による定住促進と、転居先の候補となり、選ばれるまちの実現に向けたシティ・プロモーションを実施していく。  
・アドバイザーからの助言や提案などを取り入れたシティ・プロモーションを展開し、本市に愛着を持つ人材や事業者と良好な関係を築き、民間からの魅力の発信を促すよう努める。

## 8 行政と市民の役割分担

（市）「シティ・プロモーション方針」に基づく施策の実現に向け、朝霞市民プロモーションミーティングで事業を企画する。  
（市民）事業に参加し、情報発信を行う。  
（委員会）シティ・プロモーションの事業展開等の調査、助言等を行うほか、シティ・セールス朝霞ブランドの選定を行う。

## 9 所管部の総括

・朝霞市民プロモーションミーティングのメンバーが作成した「わたしの“あさか時間”」は市民と連携したシティ・プロモーションであり、今後の展開に期待したい。  
・シティ・プロモーション方針に基づく3つの会議体の進行については、それぞれの役割をしっかりと把握して、効果が発揮できるよう進めること。